

# 年 頭 所 感

## 新年挨拶



大阪府町村長会会長 中 和博

新年あけましておめでとうございます。  
皆様方には、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。  
府内市町村の振興発展のため、力を尽くして参りますので、今年も変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様もご承知のとおり、昨年夏の総選挙（マニフェスト選挙）においては自民党が民主党に大敗、9月には国民の高い支持を得て鳩山新政権が発足し、日本の政治史に新たな時代の幕開けが告げられました。

「政権交代」「事業仕分け」「脱官僚」などの「ことば」が流行語となりましたことは記憶に新しいことと存じます。

鳩山新政権の政権構想の中には、「官僚丸なげの政治から、政権党が責任を持つ政治家主導の政治へ」「中央集権から、地域主権へ」また、「その第一歩として地方の自主財源を大幅に増やす」といった中身の方針や約束が掲げられております。

私どもは、この「地域主権」の考え方のもとで、それぞれの町村が自主的・自立的に「個性あふれるまちづくり」を展開できることを強く望んでおり、今後も鳩山総理のリーダーシップに期待するとともに、「地域主権の確立」「地方の再生」に向けた政策転換を町村の立場から声高に訴えてまいりたいと考えております。

まずは、町村の財政基盤の強化です。

自主財源の大幅な増額が必要不可欠となっております。

もとより自主財源の乏しい町村の行財政運営は、景気の低迷、地域経済の疲弊により厳しい状況が続いており、こうした中であって、「三位一体改革」などで失われた5兆円を超える「地方交付税」の復元・増額が最大の課題となっております。

地方分権改革の進展に備え、地方税財源の充実強化とあわせて、「国と地方の協議の場」での議論を最優先させるため、その法制化について、全国町村会等とも連携しながら、要請行動などの取り組みを一層進めてまいります。

次に、農山村振興について少しふれさせていただきます。

私は、常日頃から都市と農山村が相互理解のもとで自立できる自治体・地域こそが、地域主権国家の礎と考えてきました。今年の「全国町村長大会」において、「地方の疲弊は農林業の衰退から」というテーマで「林業の現状と課題」について、都市と農山村の両者が共存・共栄しながら日本を支えていくことの重要性をはじめ、農山村の整備や環境対策、森林保全を図るための環境税の導入も含めて意見発表させていただきました。

過疎地域においては、様々な課題が顕在化していますが、農山村の魅力（美しい景観、多様な伝統文化、新たなライフスタイルの実現の場）を再認識するための情報発信をさらに積極的に進める必要があると考えております。

また、これも流行語になりました「新型インフルエンザ」についてですが、対策については、国をはじめ、大阪府との連携を図りながら、早期の情報周知など、対応面の充実強化を図りながら万全を期してまいります。

おわりに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申しあげ、年頭のご挨拶といたします。